

定価 一圓二角五分
 郵費 在り
 印刷 川崎印刷局
 発行所 常磐新聞社
 社址 平野町五丁目
 電話 三六〇番

平附近の面白い地形 (四)

於 舊城跡 山口彌一郎

八、水石山
 關伽井嶽を登りつめて、裏に廻り水石山に登ると、頂上に意外の平坦な面のあるのに驚く放牧された馬がある、昨秋妹と二人で地質の調べに行つた際、その平坦な頂上に寝ころんで、虫の音をきながら、草花を摘んで遊んだ事があった。西は急斜面で合戸の谷を見下し、東は夏井川の蛇行してゐる有様が眼下に展開してゐる、それなのに頂上は以前として平坦である、やがては谷が四方からせまつて来て、この頂上を突峯にして終ふであらうが、まだこのまゝになつてゐるのを見ると、阿武隈山地を高原と云ふ人のあるのも無理はないとうなづかれる、湯の岳の山と等にもそれらしいものが見える。

九、むすび
 ほんの地形の手ほどきに過ぎない、そしてこれで盡してゐるのではないが、面白ものを少しひろい集めてみた、波立寺濱は海蝕の地形、新羅子は砂丘と浮湖石森山が集塊岩と風蝕の地形、小玉川は扇状地、諸荷附近は蛇行、好間川はV字谷と河成段丘の地形、上の原、田代原の幼年期の地形、水石山に阿武隈高原の一端をうかがつた様な次第である、少しでも郷土の有様を秩序立て、見ようとし、又幼ない者に説明されようとする時の一助ともなれば、幼なくして逝いた小さい地理のアマチュアであつた妹もさぞなぐさめの一つとならう。

(昭和五年十月上旬)

常磐文藝 舊作より 秋山紅葉

木の葉落ちあたり淋しき冬時雨

外務社員招聘

年齢廿五歳以上男女を問はず奮闘家を望む

希望者は履歴書持参所を乞ふ

平野町大町

仁壽生命保險會社

平野町監督所

江戸前料理會社

秋の味覺をそとる松茸が廻り
 食卓に芳香をはなつてゐる

松茸料理 始めました
 秋の鳥料理

ぜひ一度御試食下さい

出前迅速 錦水

田町末廣東隣り (電話四二二番) (呼出三八二番)

看護婦急派の求めに應じます

平野町南町 看護婦會 電話三〇七番

まつやの生菓子

毎度御引立に預り難有御禮申上げます
 季節も涼しくなりましたので松屋でもいろいろの美味い生菓子を始めました茶話會や御集合の際に美味と……原料精選と……衛生と……勉強とをモットーとしてゐる松屋の生菓子を!

祝儀 引菓子折 其の他別誂の品も精々勉強致し佛事用 ますから多少に不拘御買上げ下さいませ

☑電話にての御注文は遠近によらずおいくらでも早速配達致します

平野町長橋 松屋 電話五二二番

皆様の 昭和タクシーは 此際御得意様本位に 貸切料金の値下斷行 何卒御用命を

平野町 電話三四三番

黒小倉學生服

今年はウンと安くなりました
 型も新しく一裁縫も丈夫に
 皆様にホメて頂ける自信ある
 冬服を……澤山揃いました。

特製品 小學生用 2,000円より
 特製品 中學生用 3,000円より

なかや洋服店

平野町 電話203

常に信用と責任ある良品廉賣
 今や人氣の焦點なる……

七印理想のメガネは 精幸堂時計店眼鏡部へ

平野町土橋通り

乗合自動車

かけから転落 乗客一名死亡し 運轉手は重傷す

平町播磨小路菊地自動車部
運轉手目黒政男(三)は九日
午後七時頃
乗客四名 を乗せた
四百四十七號自動車運轉
し平町から小川村に向つて
疾走中石城郡上小川村上の
臺驛道に差懸つた際前方に
二臺の荷馬車が行くので夫
れを避けんとし高さ二間半

平婦人會の總會當日

國産愛用決議

講師に交渉を進め 散會後平局舎參觀

平婦人會にては昨日午後一
時から既記の如く幹部會を
開き總會の件に關して協議
する處あつたが十一月三日
午前十時半から第二小學校
講堂に開催する事と決定當
日は國産愛用に關する決議
を爲す筈であるが午後から
は講演に移る筈で講師とし
て婦人の友社長羽仁もと子
女醫吉岡彌生の兩女士に對
し交渉を進める事になつた
尙ほ散會後は平局の新廳舎
を參觀すると

湯本不時召集 石城

し平町にては貧困兒童の滋
養料として補給しつゝある
が十三日午前八時半各牛乳
業者は平署前に集會し自動
車に分乗音楽隊を先登に平
草野、四倉、高久、江名、
泉、植田、勿來、湯本、好
間の各沿道を牛乳に依る健
康増進の宣傳を爲すと

十五日閉鎖

四倉爾市況
四倉爾市場十日の取引狀
況は(總貫數)六日廿貫
(高値)二圓六錢(安値)一
圓四十八錢(平均)一圓七
十五錢尙ほ来る十五日を
以つて閉鎖の見込みであ
ると

女の溺死体

他殺の疑ひ 死後五六日経過 江名濱漁船が發見

昨日正午頃石城郡江名岬南
方約廿間を離れた海中に女
の溺死体浮遊し居たるを同
岬漁船が發見し同海岸に屍
体を引き揚げたが死後五六
十日を経過し他殺の疑ひあ
る爲め本日縣警部補檢視
に出張した

自動車検査

平署にては管内自動車に對
し廿二三の兩日警中係グラ
ウンドに於て定期検査を施
行する筈であるが、受験者
月割は左記の如くであると
(廿一日)湯本鈴木稻美、
赤井草野三郎、小名濱小
野晋平、平松崎安、玉川
齊藤三郎、平金成國雅、
同片澤正忠、同原木正喜
同渡邊義雄(廿三日)平吉
田直之助、前草野キ、
湯本水野虎三郎、赤井遠
藤喜惣治、小名中野浩忠

秋刀魚南下

金華山沖迄
縣水産試驗場の警城丸は八
日午後北海道落石南東百カ
イリの沖で秋刀魚一萬尾
を漁獲し十日夜小名濱に歸
港したが同海區で江名町の

木炭をリヤカに積み 一俵五十錢位で捌く

山元から平町に續々入込む
眼を廻した木炭組合
日十俵も賣れば一圓五十錢
内外にはなる譯で手な勢
働に従事して安賃銀を取る
よりは割がよいと續々山の
手から押出す事になつたも
のであつて毎日此の急造炭

漁船勝丸は十三萬尾を漁
獲岩手縣釜石に入港する旨
九日縣水産試驗場に無電通
信があつた、なほ秋刀魚群
は漸次南下し茨城縣下の漁
船勝丸は金華山東八十裡
の沖で八萬尾を漁獲し九
日江名に入港したいよ
来る二十日頃までには本縣
沖で漁獲し得る

屋根から飛び降り 盗んだ下駄で隠る

飲んで勢付いた文無し客
花街新田町を騒す
双葉郡木戸村字町六六理髮
業竹内留次(三)は去る五日
の夜平驛前で友人の古市幸
(三)と飲酒して勢ひ付き懐
中無一物に拘らず新田町料
理店初音に登樓五圓五十錢
分の飲食をなし古市の歸つ
た後で屋根から飛び下り逃
走し途中蕨屋敷屋敷から搔
凌つた下駄を履いて姿を晦
したが本日自宅で捕はれ平
署に於て齊藤警部補取調中

紅葉と 溪流の美

十五日頃から
川前附近賑ふ
警城東線石城郡小川郷川前
驛間の江田地内一帶は縣下
代表的の秋色美に名高く十
五日頃から同地一帶は紅葉
と溪流の美は一層の賑を増
すが平驛では毎年の如く臨
時列車を運轉すべく不景氣
更新のため目下水戸運輸事
務局並に鐵道省に交渉中で
大いに觀楓客の利便を計畫
中である

松茸狩り

發育好いのに
石城郡大野村白岩山や小川
村地方の松茸は今が眞盛り
で今年は適度の濕りに依り
近年になく發育が良好で相
場も一貫匁三圓五十錢から
四圓位に低下したが年々十
月下旬半松茸主權の松茸
狩りは何故か本年は白石署
長が中止したので平地方の
人々は失望して居る

磐女運動會

十七日に
縣立磐城高等女學校にては
十七日午前八時より同校々

逃走酌婦搜索

青森
縣上北郡日和村傳法寺繁次
郎妹小笠原キク(三)は去る
八月來宮城縣石巻町料理店
鴨井ちせ方へ前借二百四十
圓で雇はれ中衣類其他を持
ち出して逃走したが平町方
面に潜伏せらしむとして此程
平署に搜索方願出た

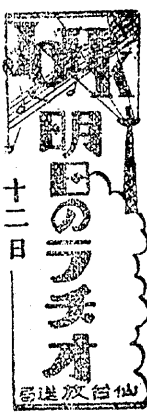
血液検査無料

平町
警城共濟病院では健康週間
中第三回血液検査無料デー
を行ふと

平町人事

▲出生
△一丁目三四比佐太郎長男達
△堤の内二八 大塚吉造長女トキ子
△北目町一 當時東京府南葛飾郡
龜戸町清水久二郎氏二男照義
△長橋町二九 松田金太郎氏長女秋
子
▲死亡
△鐵町一三 水田ナミ(一三)
△三丁目二七 小澤勝任(七二)
募集 文藝其時投稿
を募集します

廣告折込み及びチラシの音



明日のラジオ 十二日 報象氣天

今晩は北西の風 曇り時々晴れ時 雨気味明日は北 西の風晴れたり 曇つたり寒くな

△前九・一〇 榮養料理 松茸のゴロッケ 榮養研 究所 △前九・三〇 子供の時間 「童謡と唱歌」A.K.唱歌隊 △前一〇・〇〇 修養講座 「日蓮聖人の御人格」望月 日謙 △前一一・〇〇 講演「鐵道 創始時代を偲ぶ」大角敏 △後〇・三〇 「獨唱とツア イオリン獨奏」(獨唱)會 田タミイ、(ヴァイオリン) 獨奏)田中義人(ピアノ)伴 奏)上田仁 △後一・〇〇 地方俳諧 「錢吹鳴其他」八戸市上野 鴨濱外大勢 △後一・三〇より△後六・〇 〇まで 運動競技「六大 學野球リーグ戦状況」(明 治神宮外苑野球場より中

△後四・一〇より△後六・〇 〇まで角力中繼「關西大 角力」(三日目)福岡角力 場より中繼 △後六・〇〇 子供の時間 「名作物語」寺内天聲(伴 奏指揮)トコロフリジヤ △後六・三〇 講演「電氣と 宇宙」工學博士田中龍夫 △後七・二五 音楽名曲講 座「管絃樂用小品三曲」小 松耕輔(實演)日本放送交 響樂團 △後八・三〇 説教節「日蓮 上人」若松若太夫 △後九・〇〇 清元「道行旅 路舞」(落人)淨瑠璃清元 津家太夫其他 △後九・四〇 時報氣象通 報番組録告生兩相場

日蓮聖人の御人格

に就いて 權大僧正 望月 日謙

昭和の今日では東海道往復の汽車が十一回も富士驛に停車し、而かも談笑の間に兩岸の山水の明麗を眺め乍ら身延山に到達する學が出来るが、日蓮聖人が釋尊の御入滅に學び身延山より長の方に當る武藏千束の郷池上に御着きになられた日数は御病惱の時とはいへ實に其間十一日を経て居る、日蓮聖人御傳記として最古と言はれる身延山十一代行學院日朝上人の元祖化導記

にはこう記してある(上人は日蓮聖人の再生と言はるゝ大學者であつた) 弘安五年壬午九月八日午の刻身延の澤を御出發、その日は下山兵衛四郎の所に一宿、九日は大井庄司八道、十日は曾禰の次郎、十一日は黒駒、十二日は河口、十三日は吳地、十四日は竹の下、十五日は關下、十六日は半塚、十七日は瀬野、十八日は午の刻武藏國在原郡千束郷池上村に着きたまひ

了ぬ」と以て當時如何に交通が不便であつたかを物語つてゐる。 甲州身延の澤には大檀那波木井氏が其長き訣別とも知らず我が再歸を待ち詫びて居る事であらうと思召され池上に着かれた翌十九日左の一書を波木井氏に寄せられた。 前略「さては懸て歸り候はんする道なれども所勞の身に候へば不定なる事も候はんすらん、するにても日本國に若干もあつかうて候身を九箇年まで御歸依候ひける御志し申すばかりもな候、たとひいづこに死し候とも墓をば身延の澤に立てさすべく候」云々

斯くて同月廿五日安國論を講じ終つて諸從に告げて曰く「三七日の内に我當に聖祭に入るべし」と次で六上足(日昭、日明、日興、日何、日項、日持)を撰ばれ經い磨(後の日像)に帝都弘道を依賜せられ十月十三日操浴淨衣北首西面右脇にして壽量品讀誦の半にふ實に今を距る六百四十九年である、以下本日日蓮聖人御入滅の前日にあたり聖人御人格の一端を述べたいと思ふ

説教節 日蓮聖人 (龍の口御難の段) 若松若太夫 忝も高祖日蓮大菩薩御一代の其中に諸事の利益は多けれど由井ヶ濱にて太刀

われの其御由来を尋ぬるに龍の口にて日蓮を死罪の刑と定められ法花に寄依の弊は上人様のお仕置と聞より驚き悲みて最早此世の御名終せめて仕置の御場所にて御題目など唱へんと我も「と誘引合老若男女の差別なく題目の聲口々に由井ヶ濱は龍の口沙の滿來る如くなり其日の檢士の役目に本間六郎重連に平の左衛門頼綱なり太刀取役に依智の三郎仕置の場所へ相詰る平の左衛門進み出て「イヤナニ本間六郎殿今日の日蓮御苦勞に存る」其儀は御同意に候「然らば早仕置の刻限科人は引かせまじしうか「イヤカニモ御苦勞「ヤア」者其法花の行者日蓮を早々これへ「心得ましたと此方より無殘なるかや大導師高祖日蓮上人無實の難を身に受けて五逆の罪の引く如く繩目ゆるさぬいたわしや口に唱る題目は此世の名残り心には未の行歩みひま駒最後の場所を引れける本間六郎詞を和げ「アイヤ著共日蓮御坊の御いましめを免されよと係ふ「ハット警護の者御いましめをとされれば重連は上人に向ひ「イヤニ御坊我々今日上意を受けたる趣き夫れにて御受あられよと御書取出し押開き「トッ此度日蓮天下へ對し三度まで法花を進めし事二つには僧の身として淺由奈左衛門を殺し三つには念佛無間と云ならし

四つには法花一宗を弘めんとして國民を迷はせし事五つには法花一宗を立てんと欲する事五ヶ條の趣き上文に達せし所重き罪科に行ふべきを格別の御宥免を以て此所に於て討首に行ふもの也文永八年卒末九月十二日と聲高らかに讀上る上人御首あげ給ひ更に驚く體もなく「ハッア右らのかど」にて證言せしやから有て利不順に召捕りし我我人の爲に心をこらし夕部には學を枕とし朝には經文を讀誦なし天下泰平の祈を行ふ窮鼠却つて猫を噛むとは此事ならん命を惜むにはあらねども既に蒙古の勢大軍を催し此日本へ攻め來らん我無き後をふせせん天下の驗料薄きに似たりヌちやしぶく人殺杯とは以ての外ひが事ならんやと云へ譯は未練なり

普賢菩薩はてうせられ角獨兵尼はつるぎに打たれ難迴はあら、に身を任せ今我法花を弘めんと心をくだも水の泡警比場で死する共七字の題目怠りなく唱て死る物ならば「詞「釋尊初め六せん神手を取つて救光淨土へ導引給らん南無妙法蓮花經「イヤザ、我首討たれしと題坐座合掌わろびれす御目をとちさせ給ひける

北澤樂天全集豫約趣意書 秋もいよいよ深くなりお互すみ心よき時候になりました。さて今回我國漫遊會の泰斗として獨自の境涯に斷然異彩を放たれてゐる北澤樂天元生が一世一代の仕事として試みられた樂天全集が左記の方法で一般愛好者各位に頒たれることになりました。 先生は昨年八月佛國大統領の秘授によりフランスマリに於て先生の個人展覽會を開演され亦引き繼ぎ英米兩國に於ても同展覽會を開演し、之れが爲め歐米の全天地に非常な人氣を拍し我國漫遊界の權威を海外に知らしめたのである。先生の壽終致には他の追從を容さぬ剛健と諷刺と溼潤さが畫面全體に溢れ一點一角は

平町賀澤忠治 全卷 拾貳冊 毎月一回 一冊配本十月年昭和六九月終了 一冊 金壹圓五拾錢 代金は 配本の際引替のこと 申込所 石城郡平町 賀澤忠治方

蒲鉾製造販賣開始 愈々蒲鉾の期節が到来しましたので例年通り製造販賣を開始致しましたから従来同様御最負に預り度く願上げます 蒲 鉾 平町壹丁目 さつまあげ 藤 寅 吉原あげ 電話一四一番 折詰仕出し

愛馬散 小野屋藥店

